

トラック輸送情報（平成17年7月分）

平成17年10月14日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

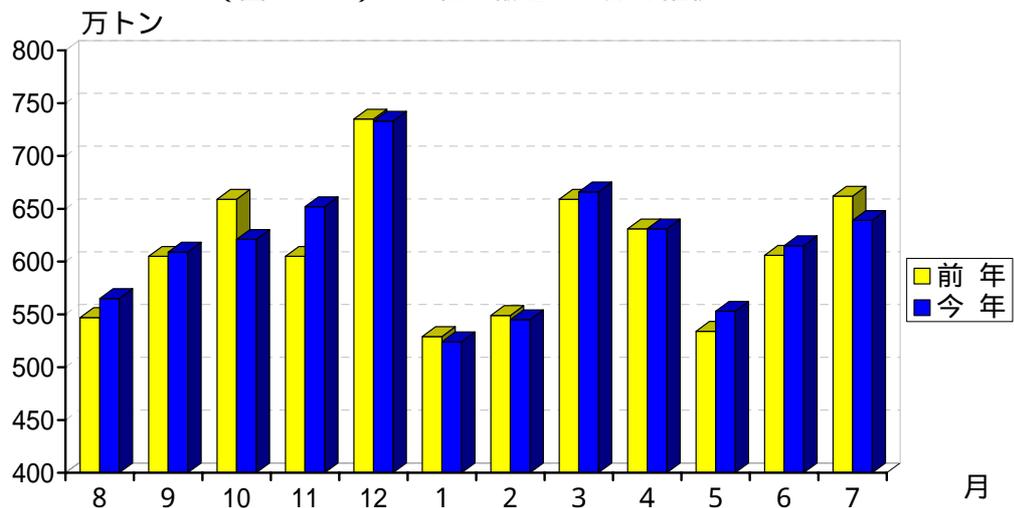
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,393,864トンで、前月と比べ、総輸送量が約25万トン増加したため、前月比104.0%（季節調整済み95.6%）、前年同月と比べ、約22万トン減少したため、前年同月比96.7%の実績であった。

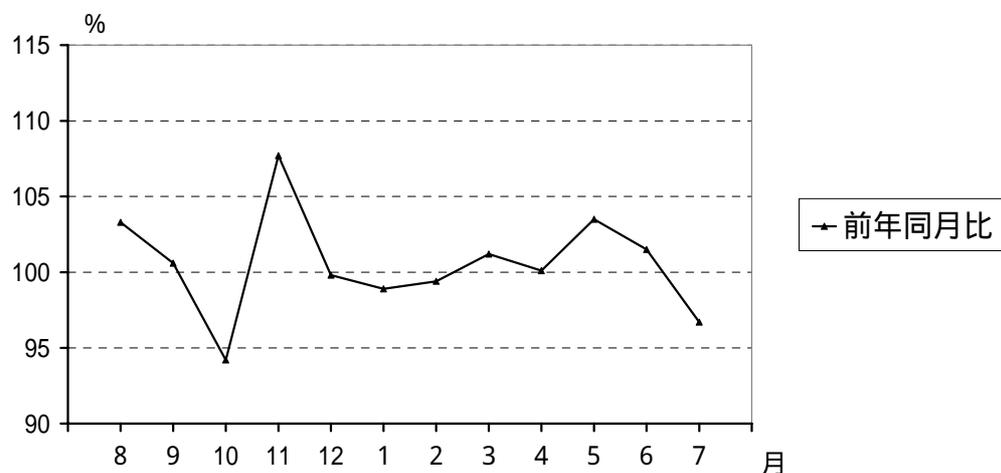
なお、平均稼働日数は、24.5日で、前月と比べ0.9日の減少、前年同月と比べ0.6日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、260,974トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比107.8%、前年同月と比べ、約3千トン減少したため、前年同月比99.0%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

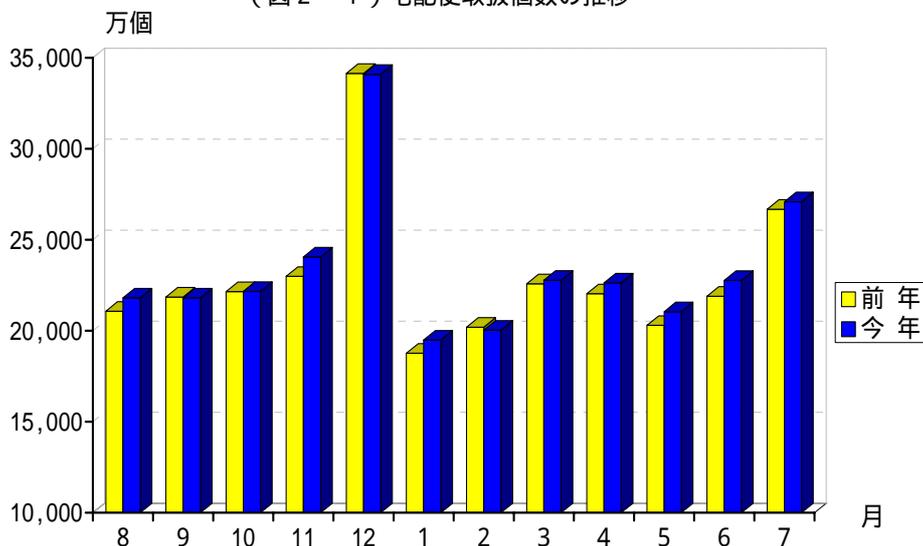


(2) 宅配便の概況

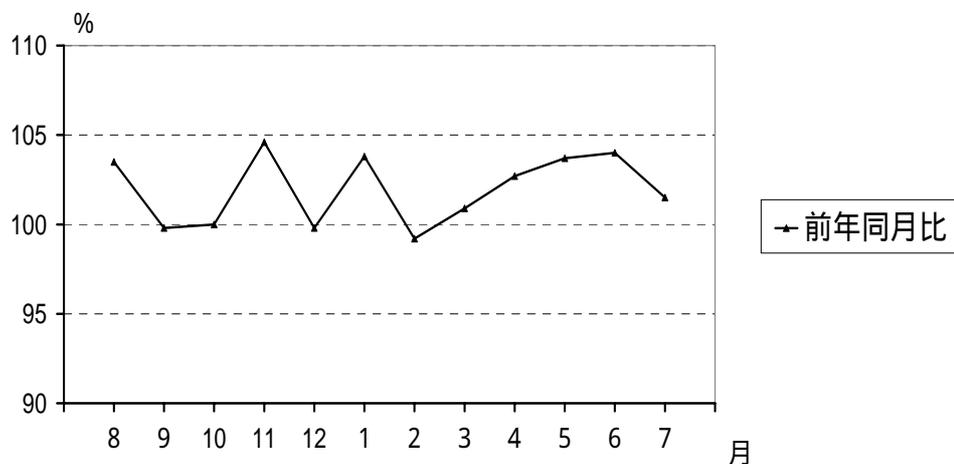
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、270,866 千個で、前月と比べ、約 4,322 万個増加したため、前月比 119.0% (季節調整済み 95.5%)、前年同月と比べると、約 413 万個増加したため、前年同月比 101.5% の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、お中元期の影響で、その他(百貨店配送品)を中心に貨物量が増加した。一方、金属製品、機械、化学工業品においては、工場・生産地からの貨物減が見られた。また、化学工業品においては、倉庫から出る貨物減も見られた。地域的には、食料工業品において、東京、関東で増加が見られた。また、その他(百貨店配送品)において、全国で増加が見られた。一方、機械は関東、北陸信越、化学工業品は神奈川、関東、中国、日用品は神奈川、関東において、それぞれ減少が見られた。

前年同月と比べると、金属製品は工場・生産地からの貨物増が見られた。一方、農水産品、機械、化学工業品、繊維工業品、食料工業品、日用品で、工場・生産地からの貨物減が見られた。また、化学工業品、食料工業品、日用品、その他(百貨店配送品)においては、倉庫から出る貨物減も見られた。地域的には、金属製品において、神奈川、関東、北陸信越を中心に増加が見られた。一方、化学工業品、食料工業品は神奈川、機械は北陸信越、日用品は関東、その他(百貨店配送品)は神奈川、関東を中心に、それぞれ減少が見られた。この結果、全体としては対前年同月比 96.7% となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品	1	1	13	2	青果物 野菜			
	金属製品		1	21	4	その他の金属製品	北陸信越 4		
	機械		1	19	6	その他の機械、機械部品	その他関東、北陸信越 4		
	化学工業品		1	20	7	その他の化学工業品	神奈川、その他関東、中国 4, 7		
	繊維工業品		1	26	1				
	食料工業品		4	19	4	飲料、その他の食料工業品	東京、その他関東 5		
						その他の食料工業品	四国 5, 7		
	日用品	1	4	18	5	その他の日用品	その他関東 7		
						書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	神奈川、その他関東 4, 5		
	その他	3	2	18	3	百貨店配送品	全国 2, 8		
前年同月に比べて	農水産品			13	4	1		中国、その他九州 4	
	金属製品	1	4	19	2		神奈川、その他関東、北陸信越、大阪、福岡 4		
						その他の金属製品			
	機械		1	21	4	1	機械部品	北陸信越、その他近畿、中国 4	
							その他の化学工業品	その他関東 7	
	化学工業品		3	16	9	その他の化学工業品	神奈川、その他関東、中国 4, 7		
						繊維工業品		23	5
	食料工業品		4	15	7	1	加工食品		4
							飲料、その他の食料工業品	神奈川、大阪 4, 5, 7	
	日用品		1	17	9				
書籍・印刷物、衣服、その他の日用品						その他関東 4, 5, 7, 9			
その他		1	19	6					
					百貨店配送品	神奈川、その他関東 7			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 840 社 / 調査対象事業者数 1,060 社）の輸送量は、前年同月比 98.9%、前月比 100.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	98.9%	95.8%	101.3%	99.6%	101.5%	99.7%	102.0%	97.0%	97.9%	100.7%	99.7%
前 月 比	100.8%	101.9%	98.7%	99.0%	105.4%	99.4%	101.0%	100.6%	99.1%	100.9%	102.2%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、「石炭」が輸入量の減少に伴う輸送減が見られたものの、先月から引き続き天候に恵まれ各種工事が好調に推移し、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が順調に増加したため、対前月比 101.9%であった。一方、対前年同月比は 95.8%と減少を示した。今後の輸送見通しは、工事関連資材の輸送量の維持が期待でき、次月及び以降とも増加傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、季節的需要（お中元等）が多かったことから、「野菜・果物」「食料工業品」の増加が目立ったが、前月の輸送量ほど伸びず、全体としては前月比 98.7%であった。前年同月比は 101.3%であった。今後の輸送の見通しは、次月は減少傾向、以降ともほぼ横ばいにあると思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、「野菜・果物」「食料工業品」「取り合せ品」といった品目でお中元期にともなう需要増がみられた。一方で「その他の石油製品」「その他の窯業品」が減少となった。このため、全体的には対前月比 99.0%、対前年同月比 99.6%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、新潟県において、震災復旧のための「セメント」等の輸送量増加が目立ったことをはじめ、他の地域でも「砂利・砂・石材」等の建設関係品目の輸送増がみられたことから、対前月比 105.4%であった。また、対前年同月比は 101.5%であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、増加品目としては、生産地からの輸送により、「野菜・果物」が、季節的需要により「砂利・砂・石材」に輸送の増加がみられた一方、原油価格の値上がりにより「その他の石油製品」等に輸送の減少がみられたのはじめ、「金属製品」「機械」に輸送の減少がみられた。このため、対前月比 99.4%、対前年同月比 99.7%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、生産量の増加により「金属製品（工具）」「機械（輸送機械）」が増加、また中元期であることにより「食料工業品（飲料品）」「取り合せ品（百貨店商品）」の増加が目立った。一方、「機械（電気機械、産業機械）」「その他の石油製品（重油）」「食料工業品（醤油）」「日用品（印刷物・文具・事務用品）」は景気や季節的需要により減少が見られた。このため、対前月比 101.0%、対前年同月比 102.0%であった。今後の見通しについては、盆休みの影響が考えられるため次月及び以降とも減少傾向が見込まれる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 100.6%、対前年同月比 97.0%であった。原因として品目別にみると、西瓜等の出荷時期により「野菜・果物」が、梅雨が明け、工事が増加したため「砂利」「鉄鋼」「金属製品」「機械」「セメント」等が、また、飲料の需要が高まったことから「食料工業品」が増加した。一方、「その他の石油製品」が減少しているが、原油高騰による影響と考えられる。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも管内全体では増加傾向にあると思われるが、山陰方面は逆に減少傾向にあると予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.1%、対前年同月比 97.9%であった。気候が暑くなったことから「食料工業品」「日用品」などが増加した。一方、野菜の出荷終了により「野菜・果物」が減少した。また、水不足の影響に伴い紙類の生産量が減少したことにより「紙・パルプ」の輸送減が見られた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 100.9%、対前年同月比 100.7%であった。品目別にみると、「野菜・果物」では、出荷時期を迎えた地域では輸送量が増加し、出荷時期を過ぎた地域では輸送量が減少した。また「木材」では、主に建設関係での需要が低下したことにより輸送量が減少した。「食料工業品」では、飲料水を中心とする夏向けの製品の需要が高まったことにより、輸送量が増加した。今後の輸送の見通しとして、お盆休みによる稼働日数の減少が予想される来月は減少傾向であり、以降はやや持ち直すもののやはり減少の傾向である。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「取り合せ品（お盆用品）」「食料工業品（飲料）」の移入、「金属くず（スクラップ等）」の輸出の増加が見られたが、「水産品（マグロ）」「機械（遊技場関連機械）」の輸送が減少している。全体では、対前月比では 102.2%、対前年同月比では 99.7%であった。今後の見通しについては、8月の観光シーズンに伴い増加傾向が予想されるが、以降は減少傾向にあると思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減											
1. 穀物	増	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	減	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
2. 野菜・果物	増	0	7	1	0	1	0	0	2	0	0	4	0	15
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7	0	11
3. その他の農産品	増	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	7
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5. 水産品	増	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
6. 木材	増	2	1	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	9
	減	3	2	0	0	0	0	3	1	5	0	0	0	14
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
10. 砂利・砂・石材	増	13	1	0	3	1	0	2	1	3	0	0	0	24
	減	3	2	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	9
11. 工業用非金属鉱物	増	3	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	6
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
12. 鉄鋼	増	1	1	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	6
	減	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	7
13. 非鉄金属	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
14. 金属製品	増	0	0	1	2	0	3	3	0	1	0	0	0	10
	減	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	5
15. 機械	増	0	0	3	0	1	3	2	1	4	0	0	0	14
	減	0	1	2	0	3	2	2	0	3	1	0	0	14
16. セメント	増	2	1	0	2	0	0	1	0	4	0	0	0	10
	減	1	0	0	0	1	1	1	0	4	0	0	0	8
17. その他の窯業品	増	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	6
	減	1	1	3	1	0	0	0	0	1	3	0	0	10

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	4
	減	2	2	2	1	2	3	3	0	1	0	16
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	4
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
22. 化学肥料	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	3	1	0	0	1	0	1	4	0	11
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
24. 紙・パルプ	増	2	0	2	0	0	1	0	1	1	0	7
	減	2	0	0	1	1	1	1	2	3	0	11
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食料工業品	増	2	4	2	3	0	2	4	6	11	1	35
	減	1	3	1	0	0	3	0	2	2	0	12
27. 日用品	増	1	1	0	1	1	0	0	3	2	0	9
	減	1	0	0	0	0	2	1	0	2	0	6
28. その他の製造工業品	増	0	3	1	0	0	1	1	0	3	0	9
	減	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	4
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
31. 動植物性飼・肥料	増	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	6
	減	1	1	2	1	0	0	0	0	1	0	6
32. 廃棄物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	減	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	5
33. 輸送用容器	増	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	0	0	2	0	0	4	0	2	1	1	10
	減	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	5
35. その他	増	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1